

みんなでつくろう 平和な未来



今年は、広島と長崎への原爆投下、そして終戦から80年。私たちの日常を一瞬で壊し、あなたの大切な人の尊い命を奪う悲惨な戦争を二度と繰り返さないために、当時、起こった事実を知り、自分にも起こりうることを一人一人ができることを考え、行動していくことが大切です。

被爆・戦後80年の節目に、平和な未来をつくっていくためにどんなことができるのか、家族や友人と一緒に考えてみませんか。

今、あなたに伝えたい。被爆者の声を次世代へ

一瞬で消えた日常 被爆体験者の証言より

2015年発行「千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り活動実行委員会」が発行した冊子より一部要約

あの日1945年8月6日、広島に住んでいた私は動員されていた工場が休みだったので、庭の小さな菜園の手入れをしていました。とても良い天気で、セミの声が聞こえる平和な朝でした。すると突然、北東の空から飛行機の音が聞こえ、次の瞬間閃光と衝撃で私は地面に叩きつけられました。爆心地から1.2kmの自宅でしたが私は奇跡的に軽傷。しかし目の前の街は一瞬で瓦礫の山と化し、土ぼこりがたくさん立ち上り、あちらこちらで火事が起きていました。私はすぐに、家の下敷きになっているはずの母に「お母さん!」と呼びかけました。「ここよ」という声。屋根板をはがして中を覗き込むと梁に阻まれ、わずかな隙間から血を流して仰向けに倒れた母の姿が。そのうち近くから出火した火の手が爆風の吹き返しに乗って、ものすごい勢いで迫ってきました。私は助けられない絶望の中で、ついに「お母さん、火事の火の手がここまで近づいたよ。もうそこまでは行けんのよ」と叫んでしまいました。母は「そんなら早よう逃げんさい」と言い、お経を唱えはじめ、その母の声を背に私は逃げました。母と子の絆が打ち切られる瞬間でした。

その後、母の遺骨を掘り起こして埋めましたが、小柄な遺体は子どものマネキン人形にクールタールをかけて焼いたような物体でした。本当に悔しかった…。

原爆との闘いはその後も続き、肺結核、喘息、皮膚ガン、前立腺ガン、白内障と次々に病魔に襲われました。それでも生かされた者の責任として、これからも「核兵器のない世界」を目指して頑張っていきたいと思っています。

(広島で被爆 当時16歳 M・Iさん)



知ることからはじめよう! ~戦争を知らないあなたにできること~

インフォメーションのモニターに行ったアンケートから見えたのは、「戦争を知らない」ということ。そんなあなたが戦争を知るのに、全国の組合員親子が参加して被爆の実態を学ぶ「ピースアクション」はおすすめです。知ることからはじめてみませんか?



オンライン視聴



2025 ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ

特設サイト こちらから視聴できます▶



主催：広島県生協連・長崎県生協連・日本生協連

広島市立基町高等学校による次世代と描く「原爆の絵」

被爆者の証言を若い世代はどんな絵にしたのでしょうか? 証言を真っ正面から受け止め、表現している若者の真摯な姿勢が胸を打ちます。

※広島平和記念資料館は、被爆体験証言者の記憶に残る被爆時の光景を若者が絵に描き、当時の状況を伝える「次世代と描く原爆の絵」事業を行っています。

被爆の証言アーカイブ

被爆80年を経た今なお、自身の悲惨な体験を次世代につなげるために活動を続けている姿は胸に迫るものがあります。原爆孤児になってしまった方や戦後の被爆者の実相など、自作の「平和の紙芝居」や講演からは被爆の実態がリアルに伝わってきます。

※過去のピースアクション in ヒロシマ・ナガサキで公開した被爆の証言を、一部編集して公開しています。

そのほかのコンテンツ

■広島市・長崎市 市長からのメッセージ

■オンライン碑めぐり

広島市・長崎市内各所に点在する、被爆の実相を伝える「碑」をめぐります。

■オンラインみんなのひろば

全国の各生協は多角的なテーマで平和を考える取り組みを行っています。お住まいの地域や隣の県の生協の活動を知ってみましょう。

この時期には戦争や平和をテーマにした映画やテレビドラマ、自治体の広報やイベントなどがたくさんあります。この記事、またはこうした催しをきっかけに、家族や友人と平和について語り合う機会を持ってみませんか。

さあ、あなたにできる一歩を踏みだしてみましょう。平和な未来を子どもたちに引き継ぐために。

ちばインフォメーション「平和」のバックナンバーはこちら▶



問い合わせ コープみらい千葉県本部 参加とネットワーク推進部 TEL 0120-925-036 9時~17時(土・日・祝日休み)